

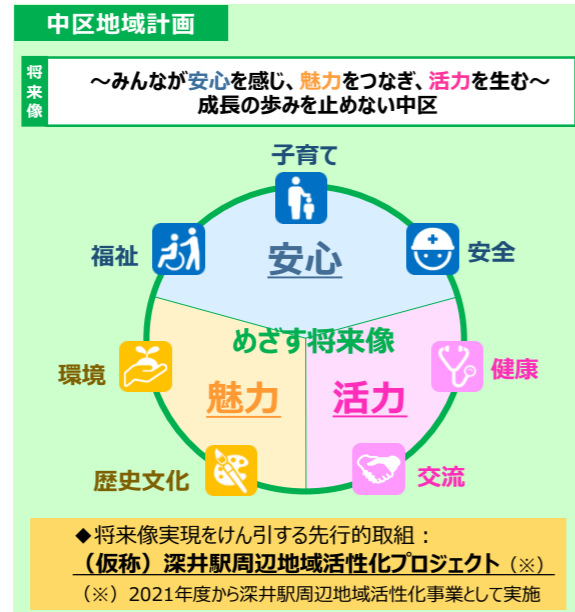
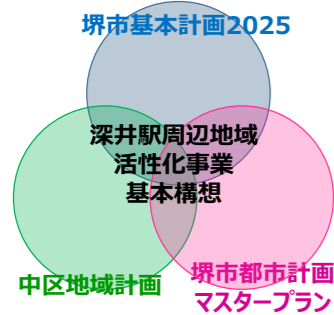
深井駅周辺地域活性化事業 基本構想（案）概要版

I 基本構想策定について

1 策定の目的

- 中区では、深井駅周辺地域活性化事業の推進により、水質池公園の機能強化と区民の日常生活に関連の深い商業・サービス機能等を併せ持つ拠点施設を整備し、歴史文化や伝統産業などの多様な地域資源を活かした取組との連携により、多様な世代の人たちが集い交流する賑わいを創出し、深井駅周辺地域の拠点機能の強化を図り、成長の歩みを止めない中区を先導する。

2 基本構想の位置づけ



II 深井駅周辺地域の現状

1 現状・課題

<中区の現状>

- 区の人口は約12万人で、今後減少傾向にあり、現状のままでは2055年までに10万人を下回る見込み。
- 人口減少の内訳としては、社会減が自然減を上回り、人口減の緩和のためには定住志向の向上が必要。
- 昼夜間人口比率は、91.9（2015年国勢調査）で100を下回り、経済の活性化や雇用の創出が必要。

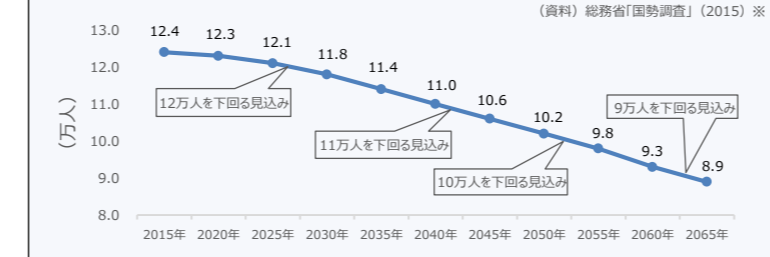
<交通アクセス等>

- 路線バスルートは、深井駅を中心に各方面へ10路線あるが、利用者の目的地によっては、乗り継ぎが必要であることや遠回りになるなど、利便性の向上が課題となっている。
- 深井駅周辺においては、駅を挟んだ東西の人流を誘引するような魅力ある通行環境の創出や、駅東西ロータリーにおける来訪者に分かりやすい歩行者動線の確保が課題となっている。

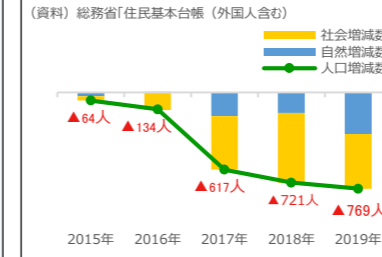
<地域資源等>

- 中区には、歴史文化や伝統産業、教育文化・スポーツ関連施設など、多様な地域資源があるが、その魅力を賑わいに活かしていない。
- 水質池公園は、深井駅に近接し、泉北高速鉄道からの視認性も優れ、幹線道路に接道する良好な立地条件であることから、地域から賑わいの創出につながる活用が望まれている。

<中区人口の将来推計値>



<中区人口減少内訳>



III 基本的な考え方

基本理念（3つの柱）

地域資源の有効活用

地域資源の価値を最大限に引き出すために知識・技術及び資本を結集させ、長期的視野と計画性を持って取り組み、かつ最適化を検討する。

QOL（クオリティオブライフ）の向上

生きがい、心身の健康、快適な住環境、レクリエーション活動など、さまざまな観点から生活の質を向上させる。

新しい生活スタイルの提供

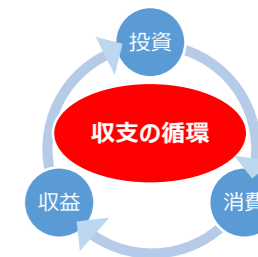
商業・医療・福祉・行政など、日常生活の核になり得る空間を創出する。

基本方針

深井駅周辺の市有地を利用転換し、地域活性化の起爆剤とする
深井駅周辺地域の魅力向上と地域拠点機能の強化

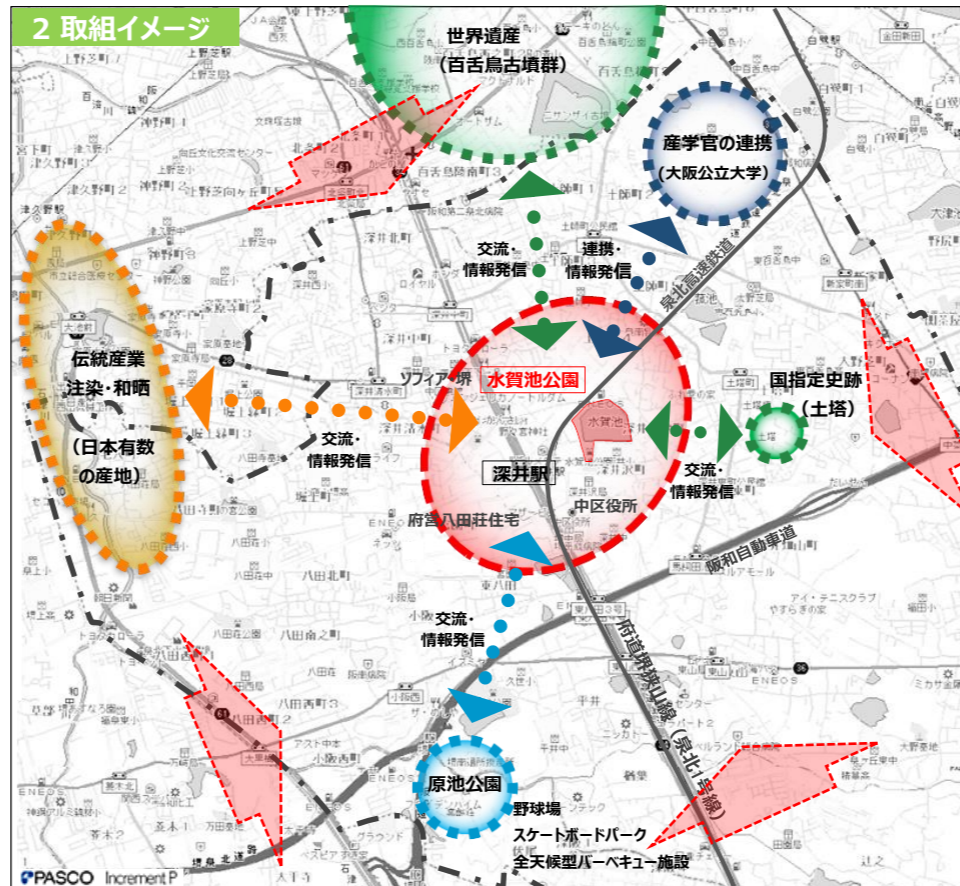
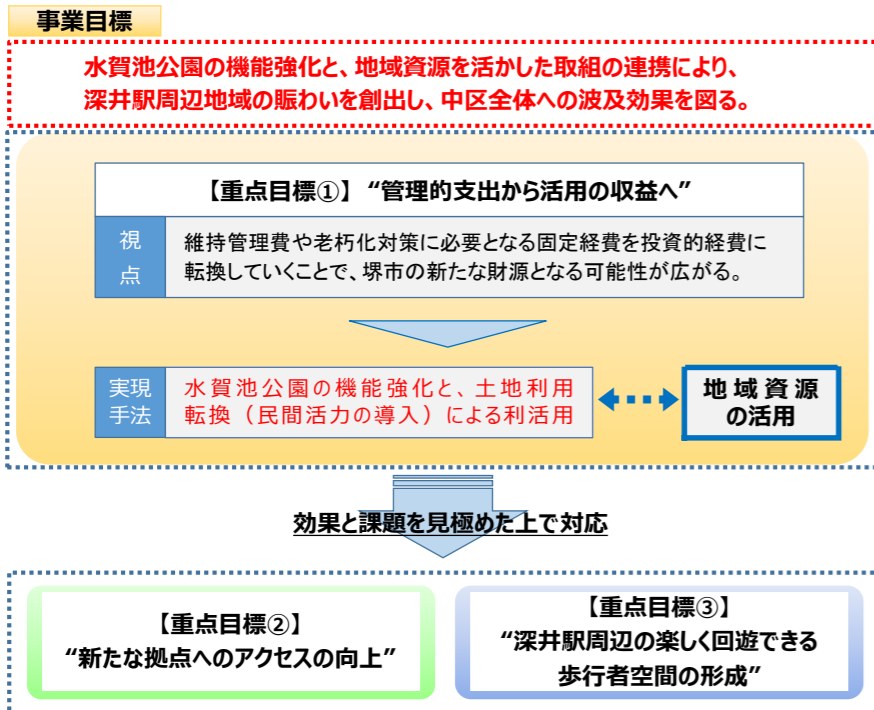
<市有地の新たな活用による効果>

市有地の柔軟で多角的な活用により、民間投資を誘導し、得られた収益を新たな公共投資に活かし、市民の利便性の向上と持続可能な収支の循環を実現する。



IV 取組方針

1 全体構成



3 分野別の取組

拠点機能の強化と環境との共存

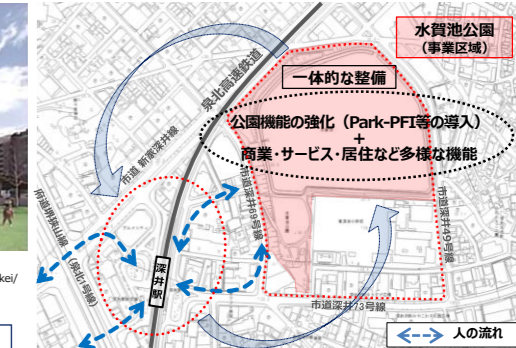
- ◆水質池公園の機能強化と、民間活力導入による地域活性化の拠点整備
- 公園機能の強化と、土地利用転換（民間活力の導入）による公園と商業・サービス・居住など多様な機能が一体となった中区のシンボルとなる施設を整備することで、多様な世代が集い交流する賑わいを創出し、周辺街区も含めて都市機能を誘導する。
- 広場機能を強化することで、一次避難地機能の向上など、防災機能の強化を図る。
- 脱炭素先行地域にふさわしい環境技術の導入を図る。
- 自然環境に恵まれた公園を維持する。

<参考事例>

天王寺公園（大阪市）



出典：国土交通省ウェブサイト
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kanminrenkei/content/001388164.pdf>



ウォーカブルな駅周辺環境の形成

- 府営八田荘住宅の建替えに伴う活用用地と深井駅、水質池公園の連携により、駅を挟んだ東西の人の流れを誘引する。

歴史文化資源等の魅力向上

- 世界遺産（百舌鳥古墳群）、国指定史跡（土塔）など歴史文化資源の魅力発信
- 伝統産業（注染・和晒）の魅力発信（質の高い伝統文化に触れる機会の提供）

産学官の連携

- 大阪公立大学との包括的な連携協力や中区政策会議などとおして、区の課題などを共有し、地域の活性化、文化、産業、教育等の分野において、地域連携に取り組む。

健康・スポーツ等の促進

- スポーツ、健康関連施設へのアクセス性を向上し、市民の健康増進に寄与する。多様な世代が気軽に使える移動手段の確保（シェアサイクルポートの整備等）

V 事業の検証・評価の指標

1 KPI（重要業績評価指標）の設定

- 深井駅周辺地域の魅力向上により賑わいを創出し、拠点機能の強化を図ることで、深井駅の利用者が増加する。（目標年度：2030年度）

評価指標	泉北高速鉄道深井駅の乗降客数の伸び率の上昇
現状値	2015年度（25,190人/日）から2019年度（26,125人/日）の乗降客の伸び率は0.92%/年
目標値	水質池公園の施設のオープン予定である2027年度から2030年度の乗降客の伸び率が2割上昇する。

2 KPI達成に向けた参考指標

- 中区の昼夜間人口率の増加
- 水質池公園の利用者数の増加